視藥霞報条

207
489

国立国会図書館　　視薬霞報条 : 3巻 207-489

ガラス使用

視藥霞報引札

馬理會作

重改畫

三冊

重改十三年印行

国立国会図書館　　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

曲亭馬琴

飯臺曲亭馬琴先醒姓瀧氏名解字瑣吉性好著戲
謔之言每作稗史以警悟當世是以雖兒園冊子亦
有深意之存焉眞可謂滑稽之雄也先生嘗言趙甌北
白詩云名士本來如畫餅古人原不好眞龍先生之
於小說也皆根于此予每歲請于先生而雕刊其所
著九賜顧君子認印歸為記冀不至悞

江戸膏肓翠楠仙鶴堂老舗小林喜衛謹白

曲亭馬琴先生文方
弘所

視藥霞報條

江戸通油町
鶴屋喜右衛門製

先生方より世ニ傳ル一切出ス不ヤウ

国立国会図書館　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

あぶら家揚り出し茶

棟梁軒大九郎製

御作料一口三文

国立国会図書館　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

八分地蔵丸

再庵老人製法

国立国会図書館　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

関羽 八十一竹青龍湯

三國相傳美髯香青龍湯ハ
そもぐさ刻りさ極方なりと
いへども此度本人みづから
もろく文月吉旦ま
で申店にて賣ひろめ
ます仰青龍湯ハ二ツ
ハふ名ばかり第一に
ちらーをはらひ一ぱい二ぱ
いの血のめぐりのよく
貴こう數服なくては是と
のぞみ候そふ用ゐる
節ハ必ずまぎやうふまもる事
肝要にてござ候

本家 三國子調合

関雲長 壽亭侯

国立国会図書館　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

本家 瀬川 神仙路考油

一箱一枚看版出し置きの十包入一箱付給金千両

一箱一枚看版出し置きの十包入一箱付給金千両

右路考油の儀は其の筋の社中ばかりにて売弘め候ゆえ外には決して売り申さず候

瀬川菊之丞

国立国会図書館　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

国立国会図書館　　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

大盡空頓兒

本家 不了軒 阿法

此くそう用ひやう八
結ろう能ろのくそう
とわりひすて大きふ
あろうふろく報
笑あふ志ろをうけ
そうふくそうそ
常ふ含をれた
角一のり楽どう
さげぜんこうを
そろうふくそあう
ふんを御一のひさ
はかそとうめ

ゆうべれいし成
そうくをいろう
八文うんのめう
やくあうごゆふ
九つ比用ゆふ八
駄屋のえいん
うれ前尾
を抽だうい
いんえん不通
のお食を湯
べーりのうこと
らうそくを
忘なの

国立国会図書館　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

ライランタ
内服高尾薬

弘所北州三浦
高尾氏

国立国会図書館　　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

銀楽

ぼんぜん盃洗ぐすり

凡ぜんぼん渡へ
ぼつ〳〵八百のふさだ
つくわこまれ
ちんくすりあそ様
こまを問屋の古
積ど物さらんと
すれふその口
むき口〳〵此時
同ようろつくく
ろうろう〳〵
考ふ吾れもり酒
とこのゝ肉れの光
をもりちらー

お薬物前出入町
錦栗屋辛右ん

今日休

福

国立国会図書館　　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

胃保痢木瓜丸

兄包　曽我十粒入
弟包　同　五粒入

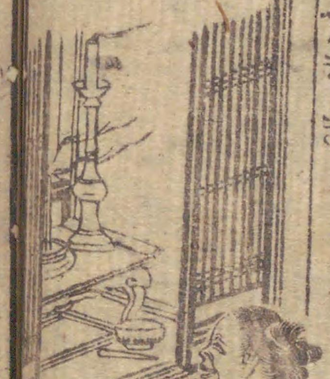
国立国会図書館　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

西

精性朝間看経丹

壹劑煩惱百八銅



天蓋散

おむさう乃妙薬

忠臣藏通

九段目語り

竹田出雲掾製

国立国会図書館　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

百顔

俳諧なせを真業

本家 常木田守武翁
芭蕉庵桃青調合

国立国会図書館　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

千金字華丹

本家入節句一週

二百個

附薬天神香一會拾六文

国立国会図書館　　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

眼參新造圓

夫心臓の一種ハ
疲労ヲ休ミて
よく滋養の血と
なり肺肝二臓の
多労を救ひ
元気ヲ一よび
うハけあるべし
なをまらハまと
のり大町傾入
ふさがりでも
肉ハのんでも
ハきめざるし

壹劑金壹歩 但しちかゐ

取次所 何ハ茶屋有

抑この新造圓ハ
元ハ唐土の天海
老仙伝
不老の神薬なり
功能ひとかど
ありて
ものべし

国立国会図書館　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用

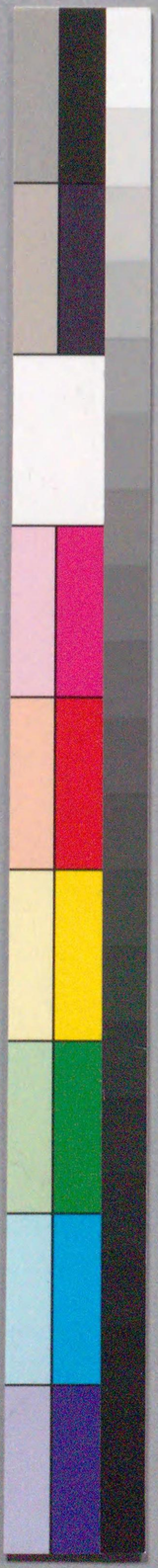
207
489

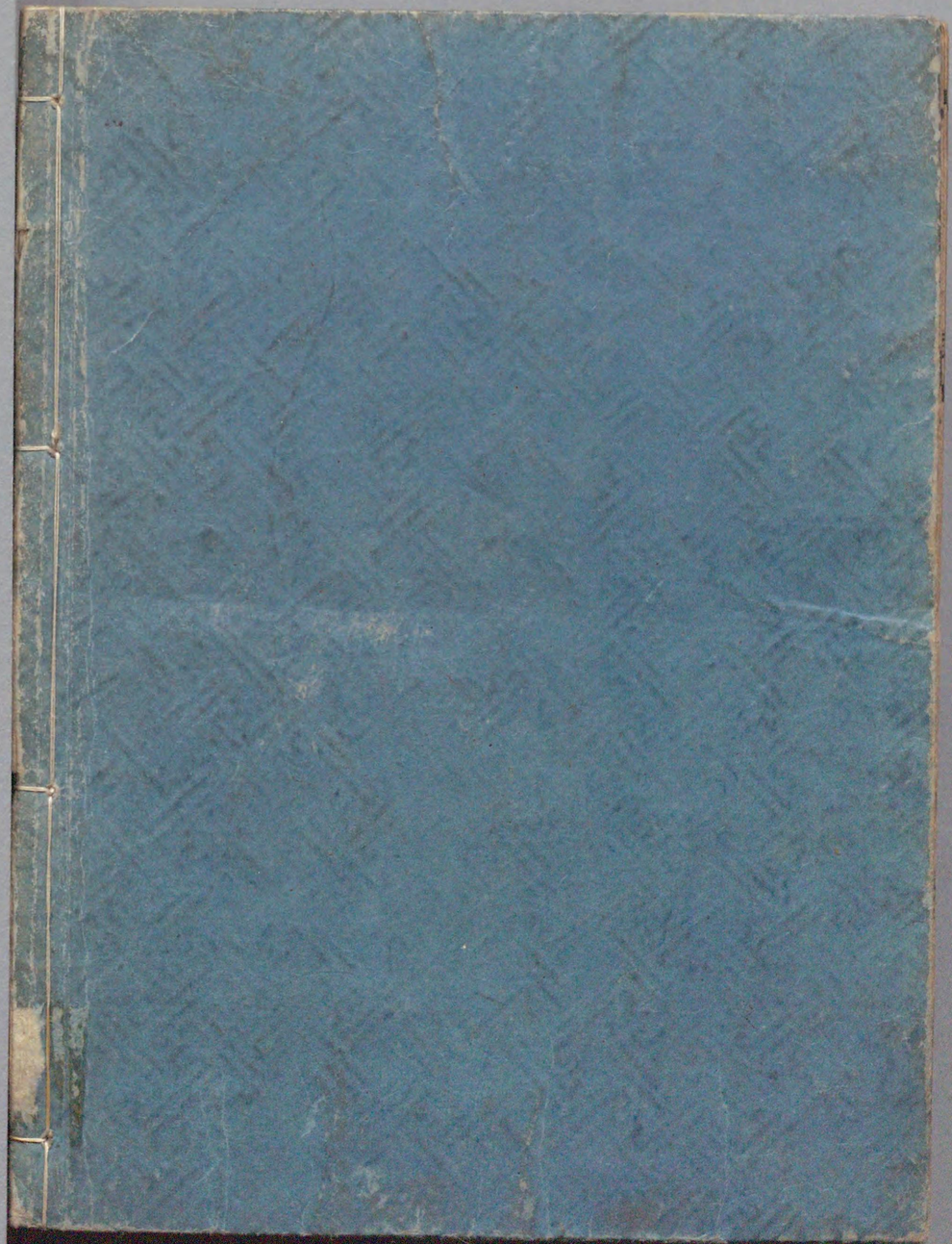
曲亭馬琴作

▲戯子名所圖會

国立国会図書館　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用





国立国会図書館　　視薬霞報条：3巻 207-489

ガラス使用